

平成19年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		社団法人武蔵野市シルバー人材センター						
①	指標名	公共民間受託契約金額			目標値	454,896	実績値	421,404
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	92.6%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:千円)	401,473	435,090	415,933				
	取組内容	<p>※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>普及啓発及び就業開拓事業として、全戸ビラ配布2回、JR駅頭宣伝活動1回、事業部会による事業所訪問の実施。会員募集を目的に市内掲示板やコミセンにポスターを掲示。地域のイベント参加は数箇所のみ。夏祭り、青空市、シルバースポーツ大会、市内一斉清掃等に参加し、センターのPR活動を実施した。またセンターフェアを開催し、会員相互及び市民との交流を図った。技能講習会は、植木せん定とパソコン講師向け、手芸班縫製作業の3種目を実施した。就業の提供方法として全会員に毎月2回ニュースを配布し広く募集を行い機会均等につとめた。</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>公共の受託金額は193,752千円(前年度199,145千円)、民間の受託金額は227,653千円(前年度216,788千円)となり、民間に関しては前年実績より5.0%増加しており、企業では駐車場・駐輪場管理、家庭では家事援助・育児支援、独自事業のリサイクルが大幅な伸びを示している。</p> <p>一方、公共では市報等配付業務を新規に受託し年間28,485千円の実績があったが、放置自転車管理及び返還業務(前年実績28,666千円)の削減が影響し目標達成には至らなかった。</p>							
二次評価	<p>平成19年度は市からの放置自転車管理及び返還業務の委託がなくなったが、市報等配布業務を受託することで市からの受託金額は微減となった。その一方で民間からの受託金額は5%増加し、公共からの受託率は1.9ポイント低下し、民間受託の開拓が進み、全体としての受託金額も1.3%増加した。しかし、市からの委託が減少した分、平成19年度の目標金額には届かなかった。シルバー人材センターはここ数年、正味財産の比率が低下傾向にあるため、財務状況を改善するよう民間からの仕事の受注開拓を更に進めることが必要である。</p>							
②	指標名	損益計算書 事業収入 自主事業収入 収益事業			目標値	223,212	実績値	227,653
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	102.0%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:千円)	188,122	207,131	216,789				
	取組内容	<p>※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>介護保険、日常生活支援事業の周辺にある利用者負担の高齢者家事援助の受託拡大 植木剪定、除草、掃除等の家庭からの受注拡大 ・ 駐車場管理、雑事務等企業からの受注拡大 アパート、小規模マンション等の清掃の受注拡大 ・ 簡易な修理、家具の移動等、便利班の受注拡大 リサイクル事業・補習教室事業の再構築 パソコン教室・手芸縫製作業の自主事業拡大</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>目標値は前年度実績の3%増に設定したが家庭と企業からの受注が伸び、独自事業のリサイクル事業が回復傾向にあり目標の達成に至った。</p> <p>補習教室は少子化の影響による受講生の減により減少しているが、20年度に向けてプロジェクトを組んで取り組んでいる。パソコン教室は開催回数を増やし実績増となり、手芸縫製作業は会員が増加し、作業場所と販売方法の検討が必要となった。</p>							
二次評価	<p>公共民間受託金額のうち公共からの受託金額を除いた部分を収益事業として位置づけているが、リサイクル事業の回復などにより当初目標であった前年度比3%増加をクリアし、5%の伸びとなった点は評価できる。収益事業ではないが自主財源の確保として、東京しごと財団からのAランクの補助金を受けるためには会員の一層の増加が必要であるので併せて取組みを行う必要がある。</p>							
③	指標名	会員の活用			目標値	6,300	実績値	4,966
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	78.8%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:時間)	—	4,381	6,004				
	取組内容	<p>※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>事務局業務に会員を臨時職員として年間延べ193人雇い入れ、4,966時間の雇用となった。業務内容は、運搬業務、建物清掃、請求金額計算、OA入力等である。一月あたり16名程度の会員をローテーションにより、幅広く雇用了。</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>職員人件費や派遣社員の委託費等の削減と会員の能力を幅広く活用することを目的として取り組んでおり、今後も会員の働く場の提供と会員自らセンター業務を担うこともセンター活性化につながるものとして進めていく。</p> <p>目標値は18年度実績の5%増としたが、会員も業務に慣れてきており時間の短縮と人数の削減となった。課題としては同じ会員を雇用すると効率は良いが、他の会員にも公平に機会を与えなければならない。</p>							
二次評価	<p>会員を事務局業務に活用する取り組みについては、会員が仕事に慣れ、業務を効率的に行うことができるようになったため、業務時間の短縮という結果に繋がった。会員に配分する仕事量を増やすという観点から、外部からの受注開拓を一層進めることと同時に、事務局業務の中でも会員に任せられる業務を更に検討し、会員の一層の活用に努めること。</p>							